

令和6(2024)年度 文化庁国立近現代建築資料館 活動報告

Annual Activity Report of NAMA, 2024 fiscal year

文化庁国立近現代建築資料館

I. 資料の調査・保管等

(カッコ番号は各資料のフォンド番号)

1. 各資料の作業

各資料について、次のとおり調査から保管までの業務(資料調査、資料受入、契約、資料整理・研究、目録作成、デジタル撮影、修理、資料利用等)を行った。

(1) 坂倉準三建築設計資料

■ 資料整理

資料閲覧に伴い、未番資料のナンバリング、未整理の写真・文書資料の目録整備及びデジタル化を進めた。また、令和7年度に開催共催展において展示予定の図面資料については、ナカバヤシ株式会社に修復を依頼した。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、「電力館」資料の一部を公開した。

(2) 丹下都市建築設計所蔵マイクロフィルム

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、「大屋根、お祭り広場」資料の一部を公開した。

(3) 藤森照信旧蔵東京大学生産技術研究所建築史研究資料

■ 資料整理

前年度に引き続き借用中の資料について収蔵に向け概要の調査を行った。借用中の資料に含まれていた大熊喜邦関連の資料を、8月5日、江戸東京博物館に移送した。

(7) 村田豊建築設計資料

■ 資料整理

資料群は、図面資料(7-1-1~7-48-29)、文書等(7-49-1~7-79-1)から成る。今年度、文書等(7-49-1~7-79-1)のアイテムレベルの所在点検と一部目録採録漏れの補完、及び、未採録であったファイルレベル13件に含まれるアイテムレベル102点(7-67-1~7-79-1)

の採録を実施した。

■ 書誌登録

書誌144冊について「村田豊旧蔵書誌」(村田文庫)として図書登録(図書目録作成)、配架を実施した。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、「電力館水上劇場」、「富士グループパビリオン」資料の一部を公開した。

(8) 吉阪隆正+U研究室建築設計資料

■ 資料調査

旧樋口邸所有者からの資料寄贈申し出をうけ、借用契約に向けた資料の館内移送を行った。当該資料は施主側で保管されていた図面(複製)、契約文書等を主とした内容となっており、契約締結にかかる概要調査を次年度実施する。

(10) 大高正人建築設計資料

■ 寄贈契約(第3回寄贈契約分)

建築設計資料の第3回寄贈契約を締結し、旧蔵書誌の寄付を受けた。

■ 資料整理(第1回寄贈契約分)

図面類ファイルレベル23件について、アイテムレベル2,000点の目録を採録した。次年度の採録に向けて図面のフラットニングと採番を行った。

■ 図書整理(寄付分)

書誌199冊について「大高正人旧蔵書誌」(大高文庫)として図書登録(図書目録作成)、配架を実施した。

■ デジタル化

図面1,972点(ファイルレベル60件)のデジタル化を行った。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、「メインゲート」はじめEXPO'70に関連する建築設計資料(写真アルバム等)及び旧蔵書誌資料の一部を公開した。

(13) 渡辺仁資料

■ 概要

適切な環境で資料(13-1-1~13-61-1)を保管し、資料の利用に応えている。

(14) 木村俊彦構造設計資料

■ 資料整理

「日本の万国博覧会1970-2025」展に向け、出展予定の図面のフラットニングを行った。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、2019年に収録した元所員の木村(伊藤)久枝氏と渡辺邦夫氏によるオーラルヒストリー未公開記録から、「住友童話館」の構造設計に関するエピソードを再編集し上映した。

(15) 菊竹清訓建築設計資料

■ 概要

9月末に追加の資料移送を行った。対象とした資料は図面・スケッチ資料、慰霊碑関連資料である。これらの借用契約を進めるため、寄贈者への資料整理計画の共有及び進捗報告、契約書及び覚書に関する打合せを重ね、文言の調整等を行った。

■ 委託事業

情報建築に残存するすべての建築設計資料のうち、収蔵に向けて検討すべき資料の選定に係る資料研究業務を、早稲田大学理工学術院古谷誠章研究室に委託した。委託の概要は、情報建築に残存する、菊竹清訓が携わったプロジェクトの全資料を対象に、当館にて収蔵すべき資料、他館にて収蔵すべき資料、その他資料に分類し、リスト化を進めた。また、資料館が借用している菊竹資料のうち、分類されずに収容されている図面及びスケッチ資料について、その内容の判別及びリスト化を行った。

■ 資料整理

令和5年度移送資料について、図面資料の保全を行った。一部の図面資料のフラットニング・ナンバリング・ファイル目録作成を齋藤信吾建築設計事務所へ依頼した。また、閲覧等申請に対応し資料の詳細調査を行った。

■ デジタル化

寄贈された資料のうち、約700点の図面資料の基本画像(400dpi)と閲覧用画像(200dpi)を作成した。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において「塔

広場(エクスポタワー)」、「南広場」資料の一部について公開した。

(16) 川添登資料

■ 資料整理

10月に追加の資料移送を行った。対象は川添登旧宅に保管されていた執筆原稿、研究資料、書籍等である。既に借用している資料と併せて、贈与契約の締結に向けて、輸送時の箱に収納された資料の包材入れ替え、数量確定、概要目録作成等を進めた。

■ デジタル化

借用している資料のうち、劣化が危惧されるカセットテープ16点(1985年国際科学技術博覧会会場計画委員会の音声)に対し、デジタル化及び媒体変換を行った。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、『世界一大きな絵 人類はなにを見てきたか』(川添登編、講談社、1970年)をはじめとする関連書籍を公開した。

(17) こどもの国建築関係資料

■ 概要

適切な環境で資料を保管し、資料の利用に応えている。

(18) 吉田鉄郎資料

■ 概要

適切な環境で資料を保管し、資料の利用に応えている。

(19) 平田重雄資料

■ 概要

適切な環境で資料(19-1-1~19-22-1)を保管し、資料の利用に応えている。

(20) 岸田日出刀資料

■ 概要

図面資料(20-1-1~20-1-82)と、個人資料(20-2-1~20-2-82)から成る。適切な環境で資料を保管し、資料の利用に応えている。

(21) 角田栄資料

■ 資料整理

資料92点に対し、アイテム目録の作成及びデジタル化を行った。特に日記資料については、公開にあたって内容の判断が求められるため、調査業務委託(IV.2)「角田栄資料調査及び国立近現代建築資料館における日記

資料の整理・公開に関する提言」を通じて、1ページ毎の目録も作成した。

(23) 高橋訥一・第一工房資料

■ 寄贈契約及び寄贈契約に向けた資料整理

令和5年度に実施した資料調査の成果を元に、第4回寄贈契約（ファイルレベル91件に含まれる、図面をはじめとした資料約3,800点）を締結した。また、第5回の寄贈契約に向け、未整理の図面及び事務所資料について数量確定及びファイルレベルの目録を作成した。

■ 資料整理（第1～4回寄贈契約分）

アイテムレベルの目録を約900件作成した。

■ デジタル化

図面約600点のデジタル化を行った。

■ オーラルヒストリーの作成

事務所創設時に関わり1986年に退所するまで第一工房における中心的役割を果たしていた所員である林昭男氏のオーラルヒストリー（アーカイブ用ノーカット版約100分、ダイジェスト版約30分）を作成した。

■ 展示

共催展「美術館建築－アートと建築が包み合うとき」（茅ヶ崎市美術館）において、「群馬県立館林美術館」資料の一部を公開した。

(24) 前川國男建築設計資料

■ 資料整理

アイテムレベルの目録を約900件作成した。

■ デジタル化

図面約200点のデジタル化を行った。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、「自動車館」及び借用中の「鉄鋼館」資料の一部を出展した。

(25) 原広司+アトリエ・ファイ建築設計資料

■ 寄贈契約及び寄贈契約に向けた資料整理

7月、11月、12月に少量のスケッチ及び模型3点を追加移送した。既に借用していた資料を含め、第3回寄贈契約に向けて図面・スケッチ類約21,900点に対し、数量確定及びファイルレベルの目録作成（235件）を進めた。

(26) シュパイデル旧蔵ブルーノ・タウト関連資料

■ 目録公開

ファイルレベルの目録7件を当館収蔵資料検索データベースにて公開した。

(27) ヴァスムート社旧蔵吉田鉄郎関連資料

■ 概要

適切な環境で資料を保管し、資料の利用に込んでいる。

(28) 安藤忠雄初期建築資料

■ 目録公開

ファイルレベルの目録31件を当館収蔵資料検索データベースにて公開した。

(29) 篠井家旧蔵吉田鉄郎城端郵便局資料

■ 目録公開

ファイルレベルの目録3件及びアイテムレベルの目録16件を当館収蔵資料検索データベースにて公開した。

(30) 堀口捨己資料

■ 資料整理

令和5・6年度の資料整理の成果を元に、第1回寄贈契約（ファイルレベル196件に含まれる、図面をはじめとした資料約4,200点）を行った。また、第2回寄贈契約締結に向け、図面・スケッチの他、業務資料類についても数量確定作業及びファイルレベルの目録作成を進めた。

■ 展示

「建築家・堀口捨己の探究」において、「紫烟荘」「吉川邸」「若狭邸」「静岡雙葉学園」「常滑市立陶芸研究所」などを公開した。

(32) 大谷幸夫建築設計資料

■ 寄贈契約及び寄贈契約に向けた資料整理

寄託状態にある資料について、寄贈契約に向けて資料整理を進めている。今年度はファイルレベル90件に含まれるアイテムレベル6,670点の採番を行い、第1回贈与契約を結び、受贈した。次年度の作業に向けて図面のフラットニングを行った。

■ 展示

「日本の万国博覧会1970-2025」第1部において、「住友童話館」資料の一部を公開した。

2. 新規受入資料の概要

(10) 大高正人建築設計資料（第3回寄贈契約）

大高正人は、1923年福島県三春町生まれ。1947年東京大学第二工学部建築学科卒業。1949年前川國男建築設計事務所に入所し、10年以上同事務所の主要作品の設計に携わった。1960年世界デザイン会議にメタボリズムグループの一員として参加。1962年大高建築設計

事務所設立。建築のみならず都市計画の分野でも建築界、行政、公団を牽引し、多摩ニュータウンや横浜みなとみらいなどの計画と開発に貢献した。2010年逝去。

本資料群は、大高建築設計事務所(1962-2010)で行われた建築・都市計画業務に関する包括的な資料であり、建築図面(約1,000筒)、アパチャカードなどを含む。

今年度は文書、写真、報告書など2,103件の寄贈と、大高正人旧蔵書誌199冊の寄付を受けた。

(23) 高橋誠一・第一工房資料(第4回寄贈契約)

高橋誠一は、1924年中国青島に生まれ、1945年に横浜工業学校(現・横浜国立大学工学部)航空機科卒業後、1949年に東京大学第二工学部建築学科卒業、同年より通信省営繕部設計課に勤務した。1956年に通信省を退職し、武蔵工業大学建築学科助教授(～1966年)を務め、1960年に第一工房を設立した。自身がキャンパスの全体計画を設計した大阪芸術大学では、建築学科設立と同時に主任教授に就任している。

本資料群は第一工房において作成された建築設計図書、スケッチ、写真等の資料からなり、第一工房の発足当初から事務所解散直前までの期間の資料が含まれる。高橋の代表作である大阪芸術大学のコンペ及び実施図面をはじめ、「佐賀県立博物館」などの60年代の作品から後期の作品までの一連の建築作品設計図書やスケッチに加えて、写真、パンフレット、会社記録などが含まれる。今年度は第4寄贈契約として図面やスケッチの他、竣工写真アルバムや構造計算書といった事務所資料など、計3,835点の寄贈を受けた。

(31) 堀口捨己建築資料(第1回寄贈契約)

堀口捨己は、1895年群馬県本巢郡蓆田村に生まれ、1920年に東京帝国大学工科大学建築学科を卒業し大学院進学、卒業前の2月に分離派建築会を結成した。1922年東京帝国大学建築学科助手、1923～24年にかけて渡欧し、ヨーロッパの建築を視察した。1932年帝国美術学校(現・武蔵野美術大学)教授(～1942年)に就任、1944年「書院造と数寄屋造の研究」で東京帝国大学にて工学博士学位取得。1946年より東京帝国大学(1949年～東京大学)工学部非常勤講師(～1956年)を経て、1949年明治大学工学部建築学科教授。1950年『利休の茶室』で日本建築学会賞(論文)、1951年「八勝館みゆきの間」で日本建築学会賞(作品)をそれぞれ受賞し、1963年には紫綬褒章を授与された。1965年に明治大学を定年退職したのち、神奈川大学工学部建築学科教授に就任。1984年に逝去した。

本資料群は、1920年代の堀口の学生時代から最晩年にわたる資料で、明治大学大学院校舎と聖橋校舎の堀口研究室で保管されていた図面及び文書資料に加え、堀口の自邸で保管されていた写真アルバムや蔵書、手紙などからなる。1966年に堀口が明治大学で定年を迎えた際、堀口の指示により同学大学院校舎の堀口研究室にあった資料が新設された同学生田校舎工学部建築学科に、聖橋校舎の堀口研究室にあった資料が自邸に移された。自邸資料は取り壊しの際に、遺族からの依頼で東京工業大学(現・東京科学大学)に移された。今年度は第1回寄贈契約として、図面やスケッチの他、写真アルバムや書籍など計4,199点の寄贈を受けた。

(32) 大谷幸夫建築設計資料(第1回寄贈契約)

大谷幸夫は、1924年東京生まれ、1946年東京大学第一工学部建築学科卒業、大学院特別研究生(丹下健三研究室)、1951年大学院を満期退学後も1960年まで丹下助教授の下で設計並びに調査に従事。1961年設計連合共同設立、1964年東京大学工学部都市工学科助教授、1967年大谷研究室発足、1971年東京大学工学部都市工学科教授、1984年千葉大学教授、1989年千葉大学を定年退官、株式会社大谷研究室代表。代表作に、「国立京都国際会館」、「金沢工業大学」、「住友童話館」、「沖縄コンベンションセンター」、「千葉市美術館」など。2013年逝去。

本資料群は、1960年代以降の図面、スケッチ、マイクروفイルム、青焼製本、文書、写真アルバム、報告書、模型等から成る。

今年度、図面模型7点、図面6,670点(ファイルレベル90件)の寄贈を受けた。

II. 展示・教育普及

1. 展覧会

令和6年度は、「建築家・堀口捨己の探求 モダニズム・利休・庭園・和歌」(8月9日～10月27日)、令和6年度から7年度にかけて「日本の万国博覧会1970-2005 第1部 技術・デザイン・芸術の融合」(3月8日～5月25日)を開催している。

並行して、令和7年度の「日本の万国博覧会1970-2005 第2部 EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ」展の企画立案を行った。

(1) 展覧会の開催 1

「建築家・堀口捨己の探求 モダニズム・利休・庭園・和歌」

■ 開催概要

趣旨：

建築家・堀口捨己(ほりぐち すてみ 1895-1984)は、国内最初の本格的近代建築運動とされる分離派建築会結成(1920年)に際して中心的役割を果たし、1930年代には日本を代表する国際様式建築を実現しました。西欧の近代建築の動向をいち早く理解するとともに、国内の茶室や数寄屋建築に関する卓越した研究業績を残し、第二次世界大戦後には、現代数寄屋建築を實踐して大きな影響を残しました。堀口は、1920年頃から1970年代の日本建築界を代表する建築家であり、近代建築と日本の伝統建築双方に対して深い洞察を巡らせた稀有な建築家といえることができるでしょう。茶の湯、和歌にも通じ、建築や庭園のデザインのみならず、広いジャンルで創造力を発揮しました。そこに、堀口の稀有な探求心と創造力の結実を見ることができます。

本展覧会は、堀口の学生時代から晩年に至るまでの代表作品のオリジナル図面に加えて、1920年代欧州視察時の写真、分離派建築会展資料、茶室や庭園の実測研究資料、原寸茶室模型等の展示を通じて、建築家・堀口捨己の建築、思想、創造世界を総合的に紹介します。

会期：令和6年8月9日(金)～10月27日(日)

会場：文化庁国立近現代建築資料館

(東京都文京区湯島4-6-15湯島地方合同庁舎内)

主催：文化庁

協力：公益財団法人東京都公園協会、一般社団法人日本建築学会関東支部、公益財団法人窓研究所、ヘットシップミュージアム(アムステルダム)

企画：文化庁国立近現代建築資料館

■ 会場構成

1 分離派建築会設立と表現主義の影響 1920-29

- ① 分離派建築会結成前後
- ② 平和記念東京博覧会
- ③ 渡欧と『現代オランダ建築』の出版
- ④ 「小出邸」
- ⑤ 「紫烟荘」
- ⑥ 「双鐘居」
- ⑦ 図録・図集スライドショー『分離派建築会宣言と作品』、『紫烟荘図集』、『双鐘居図集』、『一混凝土住宅図面集』

2 国際様式への傾倒 1930-39

- ⑧ 「吉川邸」
- ⑨ 「岡田邸」
- ⑩ 「大島測候所」
- ⑪ 「若狭邸」
- ⑫ 忠霊塔設計競技応募案

3 「日本」の探求 1936-58

- ⑬ 茶室への関心の高まり
- ⑭ 茶室の実測調査
- ⑮ 八勝館八事店
- ⑯ 視聴覚映像コーナー『堀口捨己 庭園講義 1968年4月26日』、『SUTEMI HORIGUCHI EN DE AMSTERDAMSE SCHOOL』
- ⑰ 編著作コーナー

4 伝統と近代の境界を超えて 1954-84

- ⑱ 「サンパウロ日本館」

会場写真



- ⑱「万葉公園」・「万葉館」・「万葉亭」
- ⑳「静岡雙葉学園」
- ㉑「常滑市立陶芸研究所」
- ㉒「清恵庵」

中央円形

- ㉓ 年譜
- ㉔ 堀口捨己建築資料(写真、チラシ、書簡、スケッチ、実測図、和歌)及び、編著作(書籍、起こし絵図など)

ロビー

- ㉕ 堀口捨己監修『茶室おこし絵図集』に基づく原寸茶室模型

■ グラフィックデザイン

- ポスター (B2版 片面カラー) 150部
- チラシ (A4判 両面カラー) 15,000部
- 図録 (B5判64頁) 4,000部
- デザイン 下田健

■ メディア掲載

雑誌・新聞・冊子(8件)

- 月刊『東京人』2024年10月号
- 季刊『住む。』91号 2024年秋号
- 『建築画報』399 Vol.60 2024年9月号
- 『新建築』2024年9月号
- 『CONFORT』2024年12月号
- (新聞) 日刊建設通信
- (冊子) 公益財団法人文京アカデミー財団広報誌スクエア
- (冊子) 文京ミュージズネットマップ

WEB / SNS (31件)

- 文化庁
- PR Times
- 日経クロステック
- 日経アーキテクチュア
- Tokyo Live & Exhibits
- Fashion Press
- NEWSRELEASE
- Tokyo Art Beat
- ニコニコニュース
- 展覧会・博物館・美術館・記念館
- Nifty ニュース
- 毎日 Infoseek ニュース

- ADF web magazine
- AIJ 日本建築学会(東京支部)
- Museumnews.jp
- 文学通信
- 一般財団法人古田織部美術館
- Aoyama Design Forum
- 建築家/都市計画家 - 古宇田卓
- Mapion ニュース
- 住宅情報 web
- 一般社団法人茨城県建築士会
- NIKKEI COMPASS(日本経済新聞社)
- DOCOMOMO Japan
- 公益財団法人窓研究所 Web
- 公益財団法人窓研究所 Instagram
- タイムアウト
- BUNGA NET
- 住宅新法
- JDN
- TECTURE MAG

■ 来場者数

日数	正門	岩崎邸	計
70日	42日 / 70日	70日 / 70日	—
—	2,115人	5,156人	7,271人
—	29%	71%	—

■ 教育普及

ガイドツアー：当館展示担当職員によるガイドツアーを木曜14:00～実施した。全9回定期開催、参加者計130人。

ギャラリートーク：講師 藤岡洋保(東京工業大学名誉教授)によるギャラリートークを3日間、各日2回実施した。全6回開催、参加者計139人。

講演会：テーマ「1923年：堀口捨己とアムステルダム派の出会い」ヘットシップミュージアムの創設者・名誉館長のアリス・ルーホルト氏を迎えし、講演会を開催した。参加者38人。

(2) 展覧会の開催2

「日本の万国博覧会1970-2005 第1部：EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合」

■ 開催概要

趣旨：

万国博覧会は、元々は、19世紀に各国の優れた物品

を集めて展示する展覧会として始まりました。万国博覧会の建築は、展示品の器の役割を果たすためのものですが、近代建築の発展に大きな貢献をもたらしました。例えば、1889年パリ万国博覧会に際して、会場のゲート及び展望台として建設されたエッフェル塔は、当時最先端の鉄骨造建築であり、今日でもパリのランドマークとして機能しています。万国博覧会が、国の威信をかけた催事であると同時に、短期間のみ使用される建築であることが、様々な建築的な実験を促し、その結果、万博建築は近代建築の進化に大きく貢献することになりました。

日本国内では、これまで日本万国博覧会（大阪万博、EXPO'70、1970年）、沖縄国際海洋博覧会（1975年）、つくば国際科学技術博覧会（1985年）、国際花と緑の博覧会（1990年）、日本国際博覧会 愛・地球博（2005年）の5回の万国博覧会が開催されており、大阪・関西万博〔2025年4月13日（日）-10月13日（月）〕がそれに続き、6回目ということになります。

本展覧会は、当館が所蔵する図面や企画段階の資料を中心とした展示を行い、これまでの5回の万国博覧会の会場計画と施設デザインに関する理解を深めていただくことを目的とします。本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割の一端を理解しながら、博覧会建築ならではの建築デザイン上の創意工夫をご鑑賞ください。

第1部「EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合」では、5回の万国博覧会の概要を紹介しつつ、特に日本万国博覧会（大阪万博）について代表的な施設の図面等を通して、技術・デザイン・芸術の融合に向けた創造的な挑戦と努力の証を展示します。

会期：第1部 令和7年3月8日（土）～5月25日（日）

会場：文化庁国立近現代建築資料館

（東京都文京区湯島4-6-15湯島地方合同庁舎内）

主催：文化庁

協力：公益財団法人東京都公園協会

企画：文化庁国立近現代建築資料館

■ 会場構成

Section 1. シンボルゾーン

- ① 丹下健三「基幹施設計画 大屋根・お祭り広場」
- ② 菊竹清訓「南広場」
- ③ 菊竹清訓「エキスポタワー・塔広場」
- ④ 大高正人「メインゲート」

Section 2. パビリオン

- ⑤ 坂倉準三「電力館」
- ⑥ 村田豊「電力館水上劇場」
- ⑦ 村田豊「富士グループパビリオン」
- ⑧ 大谷幸夫「住友童話館」
- ⑨ 前川國男「自動車館」
- ⑩ 前川國男「鉄鋼館」

中央円形

- ⑪ 万博会場マップ
- ⑫ 建築家収集の万博関連書誌（村田豊旧蔵書誌、大高正人建築設計資料、木村俊彦構造設計資料、大高正人旧蔵書誌、坂倉準三旧蔵書誌、川添登旧蔵書誌等）

映像（展示室内・ロビー）

- ⑬ オーラルヒストリー 木村俊彦 一住友童話館 構造設計についてー
- ⑭ オーラルヒストリー 村田豊 一富士グループパビリオンについてー

会場写真



⑮ オーラルヒストリー 村田豊 一電力館水上劇場について—

⑯ イントロダクション

■ グラフィックデザイン

ポスター (B2版 片面カラー) 300部
チラシ (A4判 両面カラー) 10,000部
ハンドアウト (B5判8頁) 2,000部
デザイン MIDORIS

■ 教育普及 (年度内開催分のみ記載)

シンポジウム: テーマ「EXPO'70 (大阪万博) を回想し、再考する」、パネラー「大阪万博の会場計画」田路貴浩 (京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授、「お祭り広場のデザイン」前田尚武 (京都美術工芸大学 特任教授)、「世界の万博建築の系譜」小林克弘 (当館主任建築資料調査官・東京都立大学名誉教授)、参加者 40人

*メディア掲載、来館者数、教育普及 (4月以降) に関しては、会期が年度を跨ぐため集計後、次年度 (令和7年度) 活動報告に掲載する。

(3) 展覧会準備 1 (共催)

「美術館建築 - アートと建築が包み合うとき」の主催者である茅ヶ崎美術館の共催として準備を進めた。

■ 開催概要

地域に根ざした建築設計で知られる山口 洋一郎の「茅ヶ崎市美術館」は、鳥が翼を広げたような屋根が特徴的です。この湘南の軽やかな空気をまとう当館を舞台に、場の特性を活かす“サイト・スペシフィックな芸術”として、5つの珠玉の「美術館建築」を取り上げます。

石見地方特産の石州瓦で建物全体を覆い、釉薬の違いにより玉虫色の建築を創り上げた内藤 廣「島根県芸術文化センター」。広島造船技術を活用した可動展示室を中心に、所蔵作品から着想を得たエミール・ガレの庭、10棟のヴィラ、レストランからなる海辺にたたずむ坂 茂「下瀬美術館」。瀬戸内の島につくられた銅製錬所の遺構を活用し、周囲の丹念なりサーチのもと、風・水・太陽を“動く素材”として扱い、自然エネルギーによる循環型建築を創り出した三分一 博志「犬島精錬所美術館」。環境・アート・建築が一体となり、上部に大きく開けた穴からうつろう自然を採り込む唯一無二の空間で知られる西沢 立衛「豊島美術館」。加えて、国内の建築資料のアーカイブを行う文化庁国立近

現代建築資料館が所蔵する3つの美術館、坂倉 準三「神奈川県立近代美術館」、ル・コルビュジェ「国立西洋美術館」、高橋 誠一+第一工房「群馬県立館林美術館」のオリジナル図面も公開します。

本展では、模型や設計図面に加え、初期アイデアスケッチ、建築素材、実験過程がわかる資料を通じ、建築家の思考を辿るとともに、その場所にその美術館がある意味を探っていきます。

主催: 公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

共催: 茅ヶ崎市、文化庁国立近現代建築資料館

会場: 茅ヶ崎市美術館

会期: 令和7年4月1日 (火) - 6月8日 (日)

(4) 展覧会準備 2

令和7年度に向け、企画展「日本の万国博覧会 1970-2005 第2部 EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ」の企画立案を進めた。

■ タイトル

「日本の万国博覧会 1970-2005 第2部 EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ」

■ 企画概要

第2部「EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ」では、日本万国博覧会 (大阪万博) の一部展示替えを行い、他の4つの博覧会に関する収蔵図面と資料を展示します。EXPO'70の技術を前面に出した総合テーマから、人間の居住、海や山などの自然、さらに地球の環境への配慮へと総合テーマが変化し、それに伴って、博覧会の会場計画の手法や建築デザインも変化を遂げる様子を展示します。

主催: 文化庁

協力: 公益財団法人東京都公園協会

会場: 文化庁国立近現代建築資料館

(東京都文京区湯島4-6-15 湯島地方合同庁舎内)

会期: 令和7年6月14日 (土) ~ 8月31日 (日)。

月曜日休館。但し、祝日の月曜は開館し、翌日休館。

開館時間: 10:00 - 16:30

■ 展示内容

1章 日本万国博覧会

丹下健三「基幹施設計画 大屋根・お祭り広場」、菊竹清訓「エキスポタワー」、菊竹清訓「南広場」、大高正人「メインゲート」、前川國男「自動車館」、前川國男「鉄鋼館」、坂倉準三「電力館」、村田豊「電力館水上

劇場」、村田豊「富士グループパビリオン」、大谷幸夫「住友童話館」

2章 沖縄国際海洋博覧会

菊竹清訓「アクアポリス」、村田豊「芙蓉グループパビリオン」、木村俊彦「水族館(横文彦設計)」構造設計資料

3章 つくば国際科学技術博覧会

大高正人「エキスポホール」、大高正人「外国館」、菊竹清訓「外国館」、高橋航一+第一工房「迎賓館」、関連資料に、川添登「会場計画資料」

4章 国際花と緑の博覧会

「建築都市ワークショップ旧蔵『13のフォーリー』資料」

5章 日本国際博覧会 愛・地球博

菊竹清訓「グローバループ」、高橋航一+第一工房「瀬戸愛知県館」

2. 資料提供

(1) 現物(貸出先:貸出資料 用途)

・茅ヶ崎市美術館:坂倉準三建築設計資料42点、菊竹清訓建築設計資料11点 共催展「美術館建築-アートと建築が包み合うとき」Art Museum Architecture: Where Art and Architecture Harmonize

(2) 画像(貸出先:貸出資料 用途)

・団体:丹下マイクロ(立教大学図書館 他)美術館展覧会へ向けて企画展示調査69本(リール単位)
 ・個人:吉阪隆正(野沢温泉ロッジ)学術研究及び国登録有形文化財の申請に向けた建築調査25点
 ・個人:坂倉準三(坂倉及びベリアン関係の家具資料)学術研究調査76点
 ・団体:吉田鉄郎(別府市公会堂)学術研究調査480点
 ・個人:前川國男(華興商業銀行綜合社宅)学術研究論文掲載137点
 ・個人:大高正人(栃木県保健福祉会館)学術研究調査26点
 ・団体:こどもの国(こどもの国に係る資料)文化の振興に寄与する展覧会企画調査45点
 ・団体:こどもの国(こどもの国に係る資料)学術研究調査(美術館紀要)249点
 ・個人:坂倉準三(東急会館)学術研究調査126点
 ・企業:菊竹清訓(スカイハウス)書籍『建具の手がか

り』(藤田雄介著)掲載4点

・個人:吉阪隆正(日仏会館、大島町立差木地小学校、大島町役場庁舎・図書館、大島町商工観光会館、呉羽中学校、宇宙科学館、江津市庁舎)33点、大高正人(村井学園体育館)2点、坂倉準三(東洋レーヨン基礎研究所)6点 学術研究調査41点
 ・団体:大高正人(千葉県立中央図書館新築工事)73点、木村俊彦(千葉県立中央図書館 構造計算書)290点 所有者による施設の跡地利活用の検討363点
 ・団体:木村俊彦(千葉県立中央図書館 工事写真アルバム3冊)所有者による施設の跡地利活用の検討65点
 ・企業:坂倉準三(東急会館)1点、池辺陽(渋谷区復興計画案 中心地区計画透視図)1点、吉阪隆正(大島町復興計画水取山計画, PADIGLIONE GIAPPONESE(ヴェニス・ビエンナーレ日本館)2点、前川國男(晴海高層アパート)1点、吉田鉄郎(東京中央郵便局)1点、大高正人(立川幼稚園)1点 書籍月刊「東京人」2024年10月号掲載7点
 ・企業:ヴェアスマート社旧蔵吉田鉄郎(日本の住宅図版)1点、前川國男(日本住宅公団晴海団地高層アパート)1点、菊竹清訓(プリヂストーン殿ヶ谷第1アパート)1点 書籍『Rayner Banham, The New Brutalism (Ethic or Aesthetic? 1966)の日本語版出版』掲載3点
 ・団体:こどもの国資料(児童館に係る資料)学術研究調査(美術館紀要)221点
 ・個人:渡辺仁(渡辺仁建築事務所作品集)学術研究調査46点
 ・企業:前川國男(プレモス7号アクソメ図)書籍『住居計画入門(仮)』7-3住まいの工業化:プレハブ住宅(権藤智之著)掲載1点
 ・個人:丹下マイクロ(山梨文化会館)学術研究調査115点
 ・企業:原広司(JR京都駅)掲載画像選定のための閲覧調査21点
 ・個人:安藤忠雄(光の教会、水の教会、住吉の長屋)10点、原広司(ケルン・メディアパーク都市計画構想国際提案競技)1点 学術研究調査合計11点
 ・個人:坂倉準三(ベリアンの家具に関する資料)学術研究調査68点
 ・団体:大高正人(全日本海員組合本部会館)掲載展示9点
 ・団体:前川國男(日本住宅公団晴海団地高層アパート)模型出展の製作調査7点
 ・個人:安藤忠雄(水の教会)学術研究調査15点

- ・企業：坂倉準三（「ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン3人展」展示風景、東急文化会館竣工写真）展示『ル・コルビュジエ 諸芸術の総合 1930-1965 ーやがてすべては海へと至る』出版販売用図録掲載1点パネル掲載展示3点
- ・企業：原広司（游喜庵、フォリストハウス、原邸、栗津邸）書籍『住居に都市を埋蔵する』（原広司著）掲載26点
- ・企業：渡辺仁（晩年の渡辺仁肖像写真）『NHK Eテレ 美の壺（天井編）』放映1点
- ・企業：前川國男（プレモス七号型 他）財団機関紙『ビルディングレター 2月号』掲載（紙面及びWEB媒体）3点
- ・団体：こどもの国資料（児童館等）学術研究調査（美術館紀要）4点
- ・個人：堀口捨己（明治大学生田校舎2号館、明治大学和泉校舎大教室）学術研究シンポジウム講演50点
- ・個人：前川國男（プレモスに係る資料）学術研究調査27点
- ・企業：吉田鉄郎（馬場氏牛込邸）模型作成8点
- ・個人：丹下マイクロ（WHO（世界保健機構）本部）学術研究調査16点
- ・企業：原広司（新梅田シティ・スカイビル）書籍『ダイアログ〈危機〉の時代の長谷川逸子・原広司・伊東豊雄』掲載閲覧19点
- ・団体：こどもの国（A地区児童遊園・児童館）1点、菊竹清訓（林間学校）2点 60周年記念「建築（散策）ガイド」掲載3点
- ・個人：坂倉準三（羽島市庁舎）学術研究調査55点
- ・個人：丹下マイクロ（山梨文化会館）修士論文掲載及び発表12点
- ・個人：大高正人（広島市基町団地計画設計図）39点
- ・団体：菊竹清訓（ブリヂストン・タイヤ久留米共同住宅 他）文化財保護活用の研究調査133点
- ・個人：吉阪隆正（「樋口邸（ひ邸）」）建物所有者による修繕工事21点
- ・団体：渡辺仁（晩年の渡辺仁肖像写真）熊本大学五高記念館内「熊本大学キャンパスミュージアム構想」インフォメーションセンターパネル掲載展示1点
- ・個人：吉阪隆正（浦邸）学術研究調査点1点
- ・団体：大高正人（広島基町団地（写真アルバム））『アートギャラリーミヤウチ』企画・展示に係る基礎調査144点
- ・企業：坂倉準三（国立西洋美術館工事写真）新設資料館「森のギャラリー」常設展示（モニター等へ画像撮影）放映使用29点
- ・団体：大高正人（千葉県立中央図書館新築工事）5点、木村俊彦（千葉県立中央図書館構造計算書）7点『JSCA 千葉 新年会記講演会』放映及び冊子販売12点
- ・個人：坂倉準三（1937年パリ万国博覧会日本館）19点、吉阪隆正（ヴェニスビエンナーレ日本館1956）17点、前川國男（熱海前川別邸）10点 学術研究調査46点
- ・個人：坂倉準三（羽島市庁舎）学術研究調査34点
- ・団体：菊竹清訓（スカイハウス）文化庁補助金事業「リビング・モダニティ 住まいの実験1920s-1970s」展示カタログ掲載1点パネル掲載展示4点
- ・企業：前川國男（日本相互銀行砂町支店）所有者による現状有姿にて当該土地建物の売買契約61点
- ・団体：こどもの国（児童館・児童遊園書類及び工事写真）学術研究調査（美術館紀要）5点
- ・個人：坂倉準三（タイ国文部省職業教育学校25校）学術研究調査34点
- ・企業：坂倉準三（タイ国文部省職業教育学校25校）展覧会「建築家・阿部勤のいえ展 暮らしを愉しむデザイン展」図録掲載1点パネル掲載展示1件
- ・企業：原広司（原広司氏オーラルヒストリー映像資料）「お別れ会」動画放映4点
- ・企業：国立近現代建築資料館（展示室内観写真）茅ヶ崎市美術館『美術館建築-アートと建築が包み合うとき』展の公式図録兼書籍「美術館建築年表」掲載1点
- ・文化財第二課：菊竹清訓（スカイハウス図面）文化財建造物調査247点
- ・企業：原広司（JR 京都駅ビル、新梅田シティ・スカイビル）書籍『ダイアログ〈危機〉の時代の長谷川逸子・原広司・伊藤豊雄』掲載8点
- ・個人：菊竹清訓（館林市庁舎図面）学術研究調査171点
- ・団体：吉田鉄郎（別府市公会堂）市制100周年記念事業『別府市誌』通史編図鑑編デジタル版（日本語及び英語版）掲載12点
- ・団体：こどもの国（児童館、児童遊園書類及び工事写真）学術研究調査（美術館紀要）5点
- ・個人：こどもの国資料（A地区児童遊園・児童館）28点、坂倉準三（ディーゼル博士記念石庭）74点 学術研究調査102点
- ・企業：大高正人（全日本海員組合本部会館）常設展示パネル展示等掲載1点

- ・個人：菊竹清訓（館林市庁舎図面）学術研究調査171点
- ・団体：菊竹清訓（ブリヂストン・タイヤ久留米共同住宅 他）文化財保護活用の研究調査133点
- ・個人：坂倉準三（東急会館・東急文化会館）「（仮）断面図でわかる建築の魅力」基礎調査80点
- ・団体：渡辺仁（晩年の渡辺仁肖像写真）熊本大学五高記念館内「熊本大学キャンパスミュージアム構想」インフォメーションセンターパネル掲載展示1点
- ・ICOM: 坂倉準三（新宿西口広場地下駐車場、構内内観パース）2点、吉阪隆正（ヴェニス・ビエンナーレ日本館）1点放映3点

(3) 資料閲覧及び複写の提供

資料閲覧及び複写の提供実績の概要は、以下のとおりである。

ア. 閲覧実施件数及び閲覧点数の実績

- ・実施件数：67件〔レファレンス及び未寄贈資料（借用中）の取次のみ含む〕
- ・坂倉順三（飯箸邸、人形町フォレストビルエレベーター周り意匠図面、東名高速道路牧ノ原サービスエリア、「ル・コルビュジエ×日本 国立西洋美術館を建てた3人の弟子を中心に」オーラルヒストリー映像、渋谷駅、東急会館、新宿西口広場地下駐車場工事概要及び構内内観パース、藤木忠善撮影写真、パリ万博写真、神奈川県立近代美術館写真、国際文化会館の最初の設計案及び立面図平面図デジタルデータ）
- ・丹下マイクロ（1971年以前資料、オランダ大学、オランダ理工大学、オランダ総合大学・病院及び寮、公文書、技術図面、アルジェリア大学の初期のスケッチとレポート、東京計画1960マスタープラン画像著作権、丹下健三のオフィスの連絡先、丹下自邸、成城ヴィラ、内田道子氏アーカイブ、トリエステ地域開発ガイドライン、広島平和資料館）
- ・池辺陽（渋谷区総合計画）
- ・吉阪隆正（浦邸、ヴィラ・クックウ、樋口邸、三沢邸、吉阪氏またはU研究室設計の住宅作品平面図、ヴェニス・ビエンナーレ日本館）
- ・大高正人（千葉県中央図書館、千葉県中央図書館（戸田建設）、東名高速道路牧ノ原サービスエリア、施設計画図面他、事務所資料、広島基町団地、広島復興に係る図面資料、坂井出人工土地の説明をする大高正人写真、資料群内スナップ写真、鬼頭梓肖像写真、資料群の複写物及びデジタル画像の提供確認、福島県立美術館、著作権処理方法、設計担当者について、三春町歴史民俗資料館及び鎌倉県立近代美術館鎌倉別館の「現場代理人」について、水沢農協、千葉県立中央図書館写真及び竣工写真、栃木県庁舎、千葉県立中図書館家具、坂井出人工地盤プラットフォーム）
- ・菊竹清訓（東光園に係る図面資料一式、スカイハウスアイソメ図及び建物概要の掲載許可、著作権取り継ぎ依頼、新建築（1958年1月号）掲載スカイハウス写真著作権確認、レム・コールハース/ハンス・ウーリッヒ・オプリスト「Project Japan」Kiyonori Kikutake KIC プロジェクト写真の複製権請求、マリンシティ、層状構造モジュール、パサデナハイツ、アクアポリス画像都城市民会館、ホテル COSIMA、銀座テアトルビル、出雲大社庁の舎、スカイハウス図面、三菱重工業㈱撮影のアクアポリス写真撮影者許諾確認）
- ・高橋誠一（佐賀コロニー、帝都信用金庫芦花公園駅前支店）
- ・前川國男（耐震技術に関する資料、帝室博物館懸賞設計応募案、木村産業研究所、国立国会図書館新館、前川自邸、神奈川県立図書館・音楽堂、埼玉県立博物館、京都美術館、国立西洋美術館新、紀伊国屋書店、東京文化会館、東京海上ビル本館、晴海アパートインテリアの写真、堅管露出シャフト写真）
- ・原広司（梅田スカイビル及び京都駅サイン入り写真、慶松幼稚園、新梅田シティスカイビル、内子町立大瀬中学校初期スケッチ、栗津邸）
- ・堀口捨己（大阪美術館透視図、朝倉氏伝授『君台観左右帳記』写本、資料保存場所について）
- ・竹山実（チャンネルタワーの階段に係る資料）
- ・公共住宅に関する研究に関する資料（公共住宅の設計及び計画に関する資料、公共住宅政策に関する資料、公共住宅の制度等に関する資料、その他公営住宅を含む資料）
- ・NAMA 設立の経緯及び背景について（収集方針、国外資料所蔵機関との連携、近年の建築文化振興の動き「文化芸術推進基本計画（第2期）」他）
- ・「文化財の護り方」（文化財の保存・管理・活用による経済的・社会的価値の創出）
- ・建築アーカイブズにみられる社会教育施設との連携（複合連携）について調査
- ・日本の文化財作品、ドイツ・ケルンのオスタシアティッシュ美術博物館の文書、図面、または通信、ローマやケルンの文化施設に携わった建築家の吉田磯谷や大橋良美の作品及びフランス・ニースの丹下健三のアジア美術館の作品等に関するアーカイブの有無、文書の入手可能性に関するガイダンスや情報
- ・書籍寄贈の問合せ

- ・建築資料研究社刊行『建設図解事典』『工的事典』
- ・過去展示図録「ル・コルビュジエ×日本 国立西洋美術館を建てた3人の弟子を中心に」の複写依頼4件

[閲覧に供した資料点数：2,987点]

資料群別の実施件数

- ・坂倉準三建築設計資料：24件691点
- ・丹下都市建築設計所蔵マイクロフィルム：3件173点
- ・吉阪隆正+U研究室建築設計資料：3件75点
- ・大高正人建築設計資料：6件496点
- ・菊竹清訓建築設計資料：13件134点
- ・こどもの国建築関係資料：2件76点
- ・吉田鉄郎資料：1件14点
- ・高橋訖一・第一工房資料：1件31点
- ・前川國男建築設計資料：6件527点
- ・原広司+アトリエ・ファイ建築設計資料：4件634点
- ・安藤忠雄初期建築資料：3件86点
- ・堀口捨己資料：1件50点

1. 複写の提供実績

- ・提供件数：1件
前川國男（日本住宅公団晴海団地高層アパート）7点

3. 近現代建築アーカイブズ講習会

実施せず。

4. 『国立近現代建築資料館紀要』第4号刊行

当館の収蔵資料に関する情報と、館職員や協力者の調査研究成果の公開について、研究論文や資料紹介等を掲載する『国立近現代建築資料館紀要』第4号を令和6年12月にオンラインと印刷（A4判、59ページ）の両方で刊行した。逐次刊行物としてISSNを取得している（ISSN 2436-6757（オンライン）ISSN 2436-6765（印刷））。第1～3号と併せてJ-Stageに đăng載し、安定して長期公開を行う体制を整えた。内容は以下のとおりである。

・論文

文化庁国立近現代建築資料館 [NAMA] 10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」に関する企画の経緯と展覧会の特徴（小林克弘、小池周子、門間光、王聖美）

・活動報告

旧館林市庁舎の保存・継承・活用における文化庁国立近現代資料館収蔵資料の活用の可能性について（橋本純）

文化庁国立近現代建築資料館 [NAMA] 開館10周年展：過去10年間の展覧会資料整理報告（小池周子）

文化庁国立近現代建築資料館の川添登資料、特に白井晟一関連資料について（木原天彦）

文化庁国立近現代建築資料館における資料整理手順の紹介—2023年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学会）短期コースに参加して（秋岡安季）

・資料紹介

菊竹清訓建築資料のアーカイブズ構築の現状報告（青山（高瀬）道乃）

堀口捨己建築設計資料の寄贈受け入れ（青山（高瀬）道乃）

・報告

大谷幸夫資料 油粘土模型から発生する揮発成分の調査について（千徳佐和子、塚田全彦）

・年次報告

令和5年度国立近現代建築資料館活動報告

5. 収蔵資料検索システムの公開・運用

令和3年6月に公開した収蔵資料検索データベース（<https://db.nama.bunka.go.jp>）を運用している。収蔵する資料群の概要公開（21資料群）、ファイル（図面筒、図面フォルダ等）レベルまでの目録公開（14資料群）、アイテム（個別の図面や資料）レベルまでの目録公開（9資料群）、サムネイル画像の公開（一部：5資料群）をしている。データベースサーバの管理は（株）vvvに委託した。

6. 資料のデジタル化

令和2年度から、一貫した仕様でのデジタル化作業をとりまとめて実施している。令和6年度は1,972点について、スキャナによる高精細デジタル化を行った。

10_大高正人資料566点

15_菊竹清訓資料682点

23_高橋訖一・第一工房資料520点

24_前川國男資料204点

7. 地方自治体への支援・助言

(1) 館林市民センター（旧・館林市庁舎）の利活用検討支援

前年度に引き続き、「館林市民センター（旧館林市庁舎）」（以下、旧市庁舎）の利活用支援を行った。

2024年度は、前年に引き続き、菊竹清訓建築設計事務所のOBで、世界的に知られる建築家・伊東豊雄氏を招いて、講演会を行った（2025年1月26日）。

加えて、館林市が「官民連携まちなか再生推進事業」として、「館林駅東エアプラットフォーム」を構築した。当館は、前年度からの支援の継続を求められ、オプザーバーとして参加した。

(2) 神奈川県立図書館・前川館（当該建物）の展示方法検討への協力

神奈川県教育委員会（以下、委員会）は、新県立図書館の建設にあたり、広く県民から愛されてきた前川國男設計の当該建物を壊すことなく、耐震改修を行い、「前川國男館」と名付け、積極的な保存活用を目指している。そして、当該建物内に、前川國男ギャラリー（仮称）を設け、当該建物及び建築家・前川國男の関連資料の展示を検討しており、については、建築資料の展示方法や展示条件などの助言を当館に求めてきた。資料館職員が現地へ赴き、当該建物の視察及び関係者との打ち合わせを経て、助言を行った。

8. 海外の展示施設や教育施設への協力と交流

2024年12月3日～6日「ICAM 香港会議」に情報係主任建築調査官が参加するとともに、海外での交流を図り、当館の設置目的及び役割についてプレゼンテーションをおして説明を行った。

- ・海外の美術館・博物館への展示資料の提供
米国議会図書館：過去から堀口捨己展までの図録一式送付。

Ⅲ. 情報収集

1. オーラルヒストリーの作成

高橋航一・第一工房資料の理解を補完するものとして、第一工房創設時から1986年まで在籍した林昭男氏にインタビューを行い、アーカイブ用ノーカット版（約100分）及びダイジェスト版（約30分）の映像を作成した。

収録日：令和7年1月16日

収録対象：林昭男（第一工房元所員）

アドバイザー：袴田喜夫、伊原洋光（第一工房元所員）

聞き手：橋本純（当館主任建築調査官）

収録時間：約120分

収録場所：林昭男氏自宅

製作者：青山真也

高橋航一との出会いから第一工房立ち上げの経緯、在籍中の作品（佐賀県立図書館、浪速芸術大学設計競技一等案、大阪芸術大学塚本英世記念館など）、組織としての第一工房の特異性、林氏から見た高橋航一の印象や作風について、インタビューを行った。

2. ギャラリートーク記録映像の制作

令和6年度「建築家・堀口捨己の探求 モダニズム・利休・庭園・和歌」展（2024年8月9日～10月27日）で普及事業として行われたギャラリートークを収録し、編集、公開した。ギャラリートークは、堀口捨己建築アーカイヴズとして当館に資料をご寄贈され、堀口捨己研究の第一人者でもある藤岡洋保先生を迎えツアー（回遊）式で行われた。資料群の来歴や、設計図面の分析からわかったことが語られている。文化庁公式YouTube「Bunkachanel」にて公開している。

- ・令和6年度「建築家・堀口捨己の探求 モダニズム 利休 庭園 和歌」展 ギャラリートーク
講師：藤岡洋保（東京工業大学名誉教授）
撮影協力：東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系 山崎鯛介研究室
収録：2024年9月／26分49秒

3. オーラルヒストリーの編集と公開

「日本の万国博覧会 1970-2005」展企画に際して、下記の4本に関して過去に制作したオーラルヒストリーを再編集し、展示活用を行った。文化庁公式YouTube「Bunkachanel」にて公開している。

- ・「オーラルヒストリー 木村俊彦
—住友童話館構造設計について—
出演：木村（伊藤）久枝、渡辺邦夫、佐々木陸朗、浜田英明
収録：2019年（編集2025年）／13分11秒
- ・「オーラルヒストリー 村田豊（1/3）
—富士グループパビリオンについて—
出演：川口衛、宇野求、永野宏、村田あが
収録：2017年（編集2025年）／23分37秒

- ・「オーラルヒストリー 村田豊 (2/3)
—電力館水上劇場について—
出演：川口衛、宇野求、永野宏、村田あが
収録：2017年(編集2025年) / 11分23秒
- ・「オーラルヒストリー 村田豊 (3/3)
—芙蓉グループパビリオンについて—
出演：川口衛、宇野求、永野宏、村田あが
収録：2017年(編集2025年) / 15分14秒

4. 新規資料群受入に向けた調査及び検討

新規資料群の受入に向けて、2024年度は7件の寄贈打診に対し調査を行った。

IV. 調査研究等

1. 我が国の近現代建築に関わるポーン・デジタル資料の継承に関する調査

調査業務受託者：Amanek 株式会社

調査実施期間：令和6年10月～令和7年3月

〔調査の背景と目的〕

建築設計は長らく紙媒体での情報伝達を主としてきたが、近年はデジタルツールを用いて行われることが一般的になった。この変化に伴い、建築設計資料もポーン・デジタル資料が急速に増加している。しかし、長期保管に対する手法及び実績が蓄積されている紙資料と異なり、デジタル資料は加速度的に進む技術発達の中で記憶媒体の更新が激しいため、その長期保管方法が確立されていない。よって、資料の滅失や読み取り方法を失う危険性が高い。

文化庁国立近現代建築資料館が収蔵を進めている建築家及び建築設計事務所の資料群においても、電子化以降の資料は滅失の危険性がある。ポーン・デジタル資料は、現状の収集方針には記載されていないものの、収蔵資料の評価や理解を補完するものが多く含まれ、その滅失は収蔵資料の価値を損なうことに繋がる。よって、ポーン・デジタル資料の保護と継承は喫緊の課題である。

デジタル資料の継承方法について、文化庁国立近現代建築資料館では令和2～4年度委託事業として「我が国の近現代建築に関わる構造資料及びその電子化継承に関わる調査」を実施し、建築資料の中でも電子化が先行する構造家資料の継承方法について調査を行った。しかし、意匠分野へ適用するには不十分な面があること、更に当該調査は構造家本人及び構造設計事務所等、

きわめて近い関係者が継承方法に焦点が当たっており、アーカイブズ機関に譲渡されたあとの長期保管については未検討である。よってその成果を足掛かりとして、意匠分野へ適用するにあたっての補強やアーカイブズ機関への収蔵を前提とした実践的な手法の構築を目指す。

なお、当該調査の実施報告書は文化庁国立近現代建築資料館 Web ページにて公開している。

2. 角田栄資料調査及び国立近現代建築資料館における日記資料の整理・公開に関する提言

調査業務受託者：国立大学法人東京藝術大学

調査実施期間：令和6年8月～令和7年3月

〔調査の背景と目的〕

文化庁国立近現代建築資料館へ寄贈された角田栄資料の多くは、写真アルバム、スケッチ帳、日記帳等の個人資料であるが、海外視察時の日誌や写真アルバムの他、大蔵省営繕課の職員名簿などは一次資料としての史料の価値が高い。角田資料92点のデータベース公開のための情報収集を目的として、詳細な目録を作成しデジタル化を行う。

また、角田資料には、手帳や手紙などの個人属性の強い資料が多く存在することから、日記などの資料の公開に向けて、関係者許諾のあり方や公文書館など先行事例を持つ施設の方針などを参考にしつつ、適切な公開方法を検討し、提言することを目的とする。

なお、当該調査の実施報告書は文化庁国立近現代建築資料館 Web ページにて公開している。

V. 委員会

1. 運営委員会

令和6年度委員の委嘱及び開催せず。

2. 小委員会

令和6年度委員の委嘱及び開催せず。

VI. 運営

1. 施設の充実

実施せず。

2. 広報・広聴

(1) 資料館ウェブサイト

ウェブサイトの保守管理をアクシオヘリックス(株)に委託して運用した。館の概要、閲覧等利用の案内、展

覧会の開催、開館・閉館の予定等を告知するとともに、刊行物のデジタルファイル等を掲載した。

(2) 文京ミュージズネットマップ2024-2025

- ・文京区内の美術館・博物館等のマップである標記に情報を掲載した。
- ・令和6年度文京ミュージズネット全体会議 日時：令和6年6月7日(金)10時30分～会場：文京シビックホール会議室(文京区春日1-16-21文京シビックセンター3階)に参加した。
- ・12月19日開催の「文京ミュージズフェスタ2024」に参加し、文京区シビックセンター内展示室にて閲覧用図録設置及びポスター掲示、パンフレット配布を行った。

(3) 上野ミュージアムウィーク2024

- ・館内でのポスターの掲示、チラシの配布及び正面玄関へのぼり旗設置を行った。
- ・チラシ、ウェブサイトへ掲載する情報の提供や校正を行った。

(4) アンケート調査

令和6年度企画展「建築家・堀口捨己の探求 モダニズム・利休・庭園・和歌」の来館者に対して、展覧会の評価等に関するアンケート調査(任意)を実施した。

3. 研修参加

アーカイブズ管理に対する職員の能力向上のため、以下の研修に参加した。

- ・国立公文書館 アーカイブズ研修Ⅰ(基礎コース)
令和6年8月19日(月)～8月23日(金)
参加者：秋岡安季
- ・国立公文書館 アーカイブズ研修Ⅲ(専門職員養成コース)前期
令和6年9月9日(月)～9月13日(金)
参加者：秋岡安季
- ・国立公文書館 アーカイブズ研修Ⅲ(専門職員養成コース)中期・後期
令和6年10月7日(月)～10月11日(金)、11月18日(月)～11月22日(金)
参加者：王聖美

Ⅶ. 予算

令和6年度予算額

近現代建築資料等の収集・保管 137,294千円

Ⅷ. 組織

令和6年度職員名簿

館長(文化庁企画調整課長)	寺本 恒昌
館長補佐(企画調整課課長補佐)	伊野 哲也
副館長	山崎 智紀

【研究系】

主任建築資料調査官(収集担当) 橋本 純

主任建築資料調査官(企画担当) 小林 克弘

主任建築資料調査官(情報担当)

ジェームス・ランピアース

研究補佐員 秋岡 安季

研究補佐員 齋藤 菜那
(R6.6.1から)

研究補佐員 王 聖美

研究補佐員 久下 高豊
(R6.10.31まで)

研究補佐員 川瀬 優
(R6.12.1から)

【事務系】

事務室長 山崎 智紀
※副館長兼務

専門職 (空席)

事務補佐員 北島 真希子

事務補佐員 平川 千絵子

事務補佐員 室田 恵実

Ⅸ. 年譜

令和6(2024)年

7月

「第1回 堀口捨己建築資料」贈与契約締結(31日)

8月

「建築家・堀口捨己の探求 モダニズム・利休・庭園・和歌」(9日～令和6年10月27日)

11月

「第3回 大高正人建築設計資料」贈与契約書締結(27日)

令和7(2025)年

2月

「みんなの建築大賞」推薦委員会主催 第2回「みんなの建築大賞」大賞授与式(12日) ※文化庁協力

「第1回 大谷幸夫建築設計資料」贈与契約書締結(27日)

3月

「日本の万国博覧会1970-2005」第1部 EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合(8日～令和7年5月25日)

「第4回 高橋訖一・第一工房資料2024年贈与資料」贈与契約締結(24日)